

柏樹

題字
南 勇 会長
川口市退職校長会
会報 第17号
平成30年7月1日

インスパイア

田中清邦



JICAは子供達が、適切な質の教育を受けられるようにするには、教員の質の向上が重要とされている。私は青年海外協力隊（JOCV）と共に、アフリカのSMASSEや中米のPROMETAM、フィリピンのSBTP等多くの国々へ行き、研修に携わった。

中米のある国を訪れて、教育大臣と話し合ったときの事である。大臣は「JOCVの学力、指導力共に優れている。また、日本の児童生徒も世界的に見て、いつも上位に位置している。我が国では、*Top 100* とする教員も多くいて困っている。日本ではどのような教育をしているのか。」と問われた。そこで、私は隊員が途上国へ派遣される前の研修を説明した。即ち「できない子などあり得ない。リズム・

速度・持続性の個人差があるにすぎない。人がどのようなときに学ぶことができるかは明らかである。それは自分のリズム・速度・持続性に合わせたときである。日本の禅宗で、機を得て両者が相応すること。のがしてはならないよい時期を、啐啄（そとく）という。まさに生徒と教員の関係も同じである。また、平凡な教員は云って聞かせる。よい教員は説明する。優れた教員は立証して見せる。

偉大な教員は触発（インスパイア）する。この触発が、いかに大切かを強調している。またA・H・マズローの欲求5段階の第5段階で、自己実現の欲求があり、仕事・願望の達成、自己成長を説明している。かつてJ・Fケネディは、『我々は全てが等しい才能を持つわけではない。しかし我々は全て、才能を伸ばす等しい機会を持つべきだ。』と述べている。教員は、授業のある種のドラマにたとえれば、主役である児童生徒の隠された演技力（思考力・学習意欲）に点火する演出家であり、またある時には黒衣役でなければいけない。即ち教員は、ガイドであり、プロンプターであ

り、スペクテイターであらねばならない」と。大臣は大変感動していた。日本へ帰国して、小学校教育隊員候補生に、例の分数計算のどこが間違っているのか、小学生にも理解できるよう説明を求めた。驚いたことに、少なからぬ候補生が答えられなかった。私は外国で偉そうなことを云って、正に灯台下暗しであった。

「天気」が転機

佐藤英次



人それぞれ人生観や他の価値観によって転機のとらえ方は異なることでしょう。私は私なりに

に何回かの転機に出会い、そのことによつて、人間としての営みの縦糸（公的）と横糸（私的）の広がりにつなげてきたと考えています。そしてそれは、自らが予想しない偶然によつてもたらされたもの（勝手な思い込みかもしれないませんが）と、ある意味意図的で必然的なものがあつたように思います。今年、古希を迎えるまでに数多くの転機がありました。はじめに縦糸に関わっていたか、30代ころのお話を二つほどさせていただきます。

ことになった昭和52年です。理科専科として赴任した学校で、当時の校長先生から、「毎日、児童が登校する前に、校門前の黒板に天気図を描き、天気予報の旗を掲げてみないか」といわれたことでした。毎日！朝！！さすがに、躊躇しましたが、気象分野については学生時代からかなり興味のある分野だったので実践してみることにしました。やがて、児童の校門前での「空を見上げる顔」が楽しみになり、「天気」が「転機」となつて、その後の理科教育に対する考え方に大きく影響を与えてくれたと思います。

ふたつめの転機は、恩師である方々の厳しいご指導のお陰で、国内外の多くの研修機会を与えられたことです。教育活動の幅や人との繋がりが広がり、その後、研修の重要性について他に説く転機にもなりました。その後の30年余りの間にも語りつくせないくらい山あり谷ありの転機がありました。今思えば、そのすべてが人間として成長させてくれたと考えています。

そして、この4月、横糸である私的意図的な転機が訪れました。それは、引越越しです。30年余住み慣れた地から一念発起転居いたしました。まさに新しい人生の始まりのような大転機です。どのような新しい出会いが待っているか、そして残りわずかの横糸がどこまで伸びていくのか楽しみ？！な今日この頃です・・・。

柏樹会総会 祝賀会・懇親会



南 勇会長

平成30年5月13日(日)、川口市退職校長会総会が青木会館で101名が出席し、開催され

ました。南勇会長の挨拶に続き、奥ノ木信夫市長・茂呂修平教育長・栗原喜一郎顧問・池内淳一市立校長会長の祝辞をいただきました。

議事に入り、事業報告及び計画、決算及び予算が承認されました。その後、祝賀会・懇親会が催され、盛会裏のうち閉会いたしました。

今年度は8名の新入会員を迎え、会員は241名となりました。

瑞寶雙光章受章

おめでとうございます



龍口喜子先生



永山忠夫先生



米澤 実先生



上段右…総会
上段左…絵画クラ
ブ活動紹介
下段右…美術展
下段左…新入会員
挨拶

米寿のお祝い

ますますお元気で



栗原喜一郎先生

ちよっといい話

笑顔が一番

谷口治郎

昨年の秋、京都駅に降り立ちました。今までは、観光が中心でしたが、今回は、別の目的がありました。それは、現在は、勤務している公民館で、私が担当している人権講座の中で紹介された建物を見るためでした。それは、「柳原銀行記念資料館」です。観光客であふれている京都駅前から8分ほど歩いた所がありました。人通りの少ない大通りを歩いて行く途中に革靴屋さんがありました。資料館は、柳原銀行を部分的に移築したものです。この銀行は、当時の柳原町の町長さんや地元の有志者によって1899年に同和地区内に認可設立されました。現在は、京都市登録有形文化財になっています。2階建ての洋館風の建物の中には、差別されてきた地域の実態に関わる資料が分かりやすく展示されていました。平成35年度、この地域に京都市立の芸術大学移転が予定されています。

「手打ち蕎麦をつくらう。」これも私が担当した講座の一つです。今年度は、私を含めて16人が参加して「手打ち蕎麦」に挑戦しました。北海道産の蕎麦粉400グラムと中力粉100グラムを合わせてふるい、水を少しずつ加えながら十本指で混ぜるところから始まり

ます。複数の先生が、各グループに付き添っているので全員が体験できます。すべての行程が終わり、自分の作った蕎麦と蕎麦がきに舌鼓を打ち講座は終了しました。

退職後、公民館にお世話になって9年目を迎えました。先日、南部退職校長会の幹事会が終わり京浜東北線に乗っていた時です。「館長さんですね。私も年をとり、活動できなくなつたので、サークルをやめました。お世話になりました。ありがとうございます。お世話になりました。」と、とても丁寧な挨拶をいただきました。「ありがとうございます。お世話になりました。公民館の玄関と事務室が密接しており、日常的にあいさつが交わされます。そして、笑顔が満ち溢れています。」

みなかみの冬

水上少年自然の家

副所長 大野光雄

午前7時半、単身赴任中の私は、その日の朝も慌ただしく家を出た。降り積もる白い雪の中にエンジン音が吸い込まれていく。凍結した路面に視線を落とすしながら、ハンドルを握る手とア

クセルを踏む右足に神経を集中させているときだった。「あつ。」と思わず声を出した。数十メートル前を走る車が突然スリップして大きく蛇行したのだ。すぐに車間距離を広げる。車はさらに、後部を左右に振ってセンターラインを超えた。その時、正面から向かってくる対向車が目に入る。あわや正面衝突かと思ったが、車は運よく体勢を立て直した。そして、何事もなかったかのように、また走り続けた。冬の朝は皆命がけだ。

自然の家に到着すると、車を降りる前に、まず、長靴に履きかえる。足が雪に埋もれてしまうからだ。次に、車外に出てフロントガラスのワイパーを立ち上げる。そして、退勤前の車の雪降ろしに使う除雪道具を手を持って、深い雪の中を玄関まで歩を進める。無事についてほっとした頃、両肩が張っているのに気がつく。

スキーに行こうと誘われたのは、正月のことだった。定年退職して心に余裕が生まれたせいも、息子家族からの誘いに気持ちがあじぶりに前向きになった。とは言え、滑るのは20年ぶりで、足腰は若い頃より衰えている上、家の物置の奥にしまいこんだ長い板と古い靴は、時代遅れで使い物になるはずがない。とにかく、まともに滑ることさえ難しそうだ。そんな思いを抱いたまま当日になった。レンタルのスキーセットを借りた。靴の金具をしつかり締

めて、つま先をビンディングにかける。そして、踵を強く踏み込んだ。カチャッ。心地よい懐かしい音がして、遠い昔を思い出した。板が前に進む。20年前の感覚を取り戻そうと、からだが必要に動き始めていた。雪の上を滑る楽しさを、私は久しぶりに思い出した。

みなかみの冬が、それから少し変わった。休日の朝は近くのスキー場に車を走らせ、午後は源泉かけ流しの温泉に向かう。傾き始める淡い陽の光の中で静かにゆっくりと湯に浸かる。マイナス10度の厳しい冬もいつしか遠のき、待ち焦がれていた春が到来した。一方で白い雪が山肌から徐々に消えていく景色に一抹の寂しさを感じている。相容れない二つの思いが入り交じる3月が、気がつくともう足早に過ぎ去ろうとしている。

1 各部の活動から1

文学散歩

平成29年10月27日(金)は、天候に恵まれ25名の会員が、両国駅西口に集合しました。芥川龍之介生育の地として、ゆかりの場所も多いのでこの地が選ばれました。

まず向かったのは、龍之介が過ごした両国界隈です。彼が通った両国小学校の塀には、「杜子春」の一説が書かれた文学碑がありました。高校は、現在

の両国高校に通いました。東京大学に合格したら、田端に移り住むようになります。

次に、勝海舟の生誕地につくと、公園の一角に勝海舟に関するパネル等が多く掲示されているところがありました。次に小林一茶旧居跡に行きました。ここには、説明のパネルだけがあり、旧居跡は雑草が生い茂っていました。

龍之介の小説の題材にもなっている「吉良上野介邸跡」前で記念写真を撮りました。回向院の敷地にかつては、尋常高等小学校がありました。回向院で遊んだことが「大道寺真輔の半生」に書かれています。また、昭和60年までは、国技館が回向院の敷地にあったという事です。境内には、「鼠小僧次郎吉の墓」、龍之介が登って遊んだ大きな銀杏の木もありました。最後に、旧安田庭園を散策して、「ちやんこ霧島」で昼食をとり、親睦を深めて文学散歩を終えました。

(谷口治郎)

四季を詠む俳句の集い

「俳句の集い」は、現在会員数15名で活動を続けています。

年に4回の句会は、芝園分室を会場にして和やかな中にも感性の磨き合える場となっています。一年の活動のまとめとして、毎年4月には句集の『柏葉』を発行しますが、この手作りの句

集も昨年度で第24号となりました。

活動を形として残していくことにより、「俳句の集い」創設時の先生方の意を継承しているという思いを強くしています。

俳句は難しいという声をしばしば耳にしますが、テレビやラジオでも人気番組でもあり、今やちよつとしたブームの様相です。

学校教材にも、韻文の学習として小学校高学年で短歌、俳句を、中学校では2年生が短歌、3年生が俳句と古典の和歌を学ぶことになっています。

発展的な学習として、小学校1年生から全校あげて俳句作りに取り組んでいる学校も多く、先生方も句会を開いて俳句を通して学び合うという実践も報告されています。

地域との一体となった教育活動の活性化が提起されて久しいわけですが、私たち「俳句の集い」も、何か連携が取れないか考えています。

「多作多捨」の言葉に後押しされて、会員の一人一人が少しでも共感のできる俳句作りを励んでいます。また、吟行や句会を開くなど、柏樹会会員の方が気軽に参加していただける幅広い活動を広げていけたらとも考えて進めています。

ここ数年、会員の減少が続く、新会員の確保が課題です。入会は随時ですので、ご参加ください。

(関根要造)

美術展

美術展の現状と課題

第11回の美術展の出品点数は81点でしたが、第12回の出品点数は70点となりました。毎年2割弱の会員の方が出品されていましたが、ここにきて横ばいか、やや減少傾向にあります。会員の高齢化のためかマンネリ化のためか危惧しているところです。ぜひ若い新会員の方のご出品もよろしくお願いたします。

更にもう一つ課題としてあるのは会場の問題です。とにかく会場が暗くて狭くて見づらい。本年度よりロビーに変更しました。また、借用しているパネルが37枚でギリギリ。低くて軽くて作品が重いと前倒れになって、展示することができません。新しく購入でもしたいところですが、経費のこともあり、現在の施設設備をお借りして工夫していく他ありません。どうかこの現状をご確認ください。ご理解いただき、よいアイデアをお聞かせください。幸いです。

さて、申すまでもなく当美術展は、その作品の種類、質、幅の広さ、加えて会員の親睦など多岐に亘り、文化総合芸術として今日までその役割を果たして参りました。その意義はよいのですが、一方、総会で久しぶりに会うために会話に時間が奪われ、とかく作品を見失いがちになります。

遺作品も含め、この勿体ない作品の数々。どうかとくと鑑賞ください。それが美術展を育む礎となると思えます。
(小川吉之丞)

親睦旅行

楽しい宴の

揚州飯店・金沢文庫見学の旅

昨年度は、素通りすることの多い横浜市方面への旅を実施しました。朝一番に訪れたキリンビール横浜工場は、見学者用の施設が充実しており、試飲はもとより、クイズをしたり、プリラもどきを体験したり、と楽しく見学することができました。

昼食は中華街の揚州飯店で本場の中華料理に舌鼓をうち、大満足の一時を過ごしました。

わが国初のアメリカ領事館が設置された本覚寺では、生麦事件やヘボン博士の業績等幕末史を身近に感じました。



平成29年度 柏樹会親睦旅行 称名寺庭園にて 9月29日

最後の見学地、金沢文庫は、参道に足を一歩踏み入れただけで鎌倉時代にタイムスリップしたような気分になる場所でした。最新の工場見

学、歴史の重さの感得と充実した親睦の旅となりました。
(和田悦男)

健康教室

食べて歩いて健康づくり

健康教室では、調理実習とウォーキングの行事を年間1回実施しています。『簡単ヘルシー料理(第12回)』は、6月14日(水)に青木公民館で17名の参加者で行いました。講師は、川口市の食生活改善推進委員協議会長の桜井道子氏にお願いしました。楽しい雰囲気の中、丁寧にご指導いただき、青背魚とおからの小判焼きなどをつくりました。自作の料理に満足し、「うまい!!」と声が上がりました。また、有意義なお話を聞くことができました。

しかし、10月に予定していた『新座の平林寺ウォーキング』は、秋の長雨・台風接近により、やむを得ず中止しました。14名の参加希望をいただいておりますので大変残念でした。



今年度は、6月に「簡単ヘルシー料理」。10月に3回目の挑戦となる「新座の平林寺ウォーキング」を計画しています。ぜひ、ご参加ください。
(中村昌義)

盆栽教室

盆栽教室では、毎年二つの事業を行なっています。一つ目は「樹里安」での鑑賞教室です。時間をかけて作り上げた作品は、ただただ感心するばかりで、どうしてもこんな風に育てられるのだろうかと思ってしまう。

1階フロアでは県立高校生が蘭のコサージュ作りを指導していました。当日参加の先輩の先生方と共にピンクの蘭に葉を添えてかわいいコサージュ作りを楽しみました。

二つ目は、毎年恒例の桐山宅での実技研修会です。今年は「真柏」の針金かけということで、今までの大きさを想像していましたが、高さが60センチもある大型の真柏でした。目の効く方は上と下で二つの盆栽にできる木を選ばれましたが、どういふのが良い真柏かもわからない私は、ご縁があった我が家の一員になりました。どう思われる真柏を手に入れました。どんな風に育っていくのか見守っていきます。

針金かけの後は、桐山宅での楽しい修は、お正月の寄せ植えです。鉢の中に自分なりの世界を作るアトナ世界観を楽しみませんか。
(佐藤順子)



(佐藤順子)

柏樹会ゴルフクラブ

ゴルフクラブの活動は、年4回予定されています。退職したものの現在の職場の関係から都合のついたときに参加させていただいています。

広々とした景色の下、僅かながらの集中と緊張を交え、ゆったりと過ごす一日は格別の時間です。ラウンド中は、プレーについては勿論のこと、諸先輩方の様々な体験や近況・健康の話などを交えながら、和気藹々とプレーが進行していきます。

懇親会では、異口同音に「今日は、天候とメンバーに恵まれ・・・」とよく話されます。毎回すばらしい天候に恵まれるという事ではありませんが、必ずメンバーには恵まれることからの話と思っています。

ストレスを溜めないことと笑うことが健康の秘訣です。古希や喜寿はこれから、米寿だ、卒寿だ、目指すは、エーシシュート。いつもながら、諸先輩方の元氣と漲るパワーに圧倒されています。それがゴルフクラブです。

(谷口正夫)



懇親会 笑いが絶えない

写真クラブ

写真クラブは撮影会と研究会をそれぞれ年2回行っています。撮影会は、主に庭園や公園など名勝・景勝地などに出かけて行き、半日ほどの撮影を行っています。

研究会は部員達が写真を持ち寄って、写真を見ながら意見交換などを行います。写真は撮影会で撮ったものだけでなく個人的に撮ったものなども持ってきていただいています。「主題が表現されているか」「構図はどうか」等々、出席者全員で意見交換を行ないます。

最近、「インスタ映え」という言葉が聞きますが、若い人たちが撮った写真をSNS上に投稿して評価しあうことが流行っているようです。一枚の写真で何を訴えるのか、構図、色、全体のバランスなどはどうかなどが評価されると思います。私たちもそのあたりがいつも悩むところです。

昨年6月に大宮公園、12月に神宮外苑のイチョウ並木に出かけました。歩いた歩数は一万歩前後で結構歩きました。健康にも大変良い撮影会だったのではないのでしょうか。



(宇多川正博)

釣りクラブ

「〇〇川でも魚釣り」

釣りクラブでは、年2回の釣業と、旨い魚を食べる会の3つの事業を行っています。鱈の船釣りは、ジャンボサイズの鱈が一人30匹程度釣れました。当日の船宿のホームページにはジャンボ鱈を一荷で釣りあげた会員の写真が掲載されました。

江戸川放水路でのボートによるハゼ釣りは、急な冷え込みでやや不漁でした。参加会員の体調不良も重なり、2時間で一人20匹程度の釣果で切り上げました。

旨い魚を食べる会は、蕨の海鮮料理店で旬の魚をいただく予定でしたが、参加申込者の諸事情により減少で、急遽中止とさせていただきます。

私の恩師であり、釣りクラブ創設会員の三浦幹雄先生が昨年末にご逝去されました。「江川君、三途の川は何も釣れないよ。もっと釣れる川に案内してくれよ。」という仲間と釣りを大切にしていた先生の声が天国から聞こえてくるような気がします。先生のご冥福をお祈り申し上げます。

お祈り申し上げ、釣り竿ではなく、筆を置かせていただきます。

(江川 剛)

絵画クラブ

絵を描き 妻との語らい また楽し (神山則幸 作)

昨年度の活動は、6回の絵画の制作、美術館での作品鑑賞を行ない、作品のレベルも少しずつ向上してきました。すべてが素晴らしい作品とはいきませんが、着実に上手になっています。

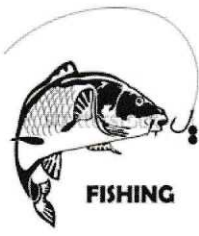
毎回最初は、筆の使い方、構図、絵の具・パステル等の使い方、色のつけ方等、講師の先生から細かく指導していただいております。その後は作品の制作に入ります。それまで講師のご指導にいろいろな質問・意見等でざわざわしていたその場が、描いている時は、シーンとして、鉛筆・筆の走る音しか聞こえません。その集中力たるものさすが元校長先生方と感心させられます。

全員が描き終わると、作品を並べて鑑賞です。皆さんそれぞれ良い点をあげて励まして頂いております。大変ありがたく、またまたやる気がわいてきます。

最後に大変残念で悲しいことですが、絵画クラブの立ち上げに多大なるご貢献を頂きました三浦幹雄先生が昨年末にお亡くなりになりました。皆、信じられず、呆然としておりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

会員一同、絵画クラブの活動が益々盛んになるよう努力してまいります。

(渡邊秀人)



英会話クラブ

英会話は度胸!

「2020年東京オリンピック・パラリンピックの私設ボランティアガイドを目指す」と、壮大な目標を掲げて発足しました創部2年目のクラブです。会員は現在九名(男性2名)。毎月第4木曜日午後1時から3時、芝園分室又は市内公民館で活動しています。

前半は初級英会話テキストを使い、リスニングやリーディング。後半はフリートーキングや英語の歌を歌いながら学びます。元英語教師の優しい指導の下、会員のほとんどは初心者ですが、毎回楽しく活動しています。



1月は、浅草の浅草寺参道で実地研修を行いました。旅行中の外国人に片言の英語で話しかけ、撮った写真をラインで交換したり、和紙の折り鶴をプレゼントすると、大変喜んでくれました。片言英語でも心が通じ合い、楽しく交流できることを体験できました。

(秋山恵子)

小中連携教育の推進

川口市立里中学校

校長 高田 晶子

平成28・29年度、川口市教育委員会より委嘱を受け、里中学区内3校(里中、里小、辻小)で小中連携・一貫教育推進事業の研究を進めてまいりました。研究主題を「児童生徒の基礎基本の定着を図り、豊かな心を育成する系統的な指導の充実」とし、なめらかな小中接続を図るために共通目標と実践策をブランドデザインに示しながら研究してまいりました。その一端をご紹介します。

1 小中連携ブランドデザイン

全国学力学習状況調査等をもとに、3校が共通する実態を分析し、不足している力を明確にしました。課題としたのは、大きく分けて3つあり「学力」「体力」「基本的な生活習慣」です。

そして、3校が足並みをそろえて共通した取組を進めることにより、児童生徒の基礎的学力、体力の向上、考える力が身に付き、たくましく豊かな心が育成されるであろうと考えた。

2 学力の向上(学力向上部)

(1) 国語科の取組

「自分の気持ちを表現できない」「理由が伝えられない」「いつも決まった言葉しか使えない」などの課題に対し、次の取組を行った。

・語彙カードの作成
 作文指導の際に活用(小学校では隔週で月2回、中学校では毎時間5分程度)
【成果】
 ・主語、述語を意識した文章を書くことができるようになった。
 ・語彙検定テストの調査結果から向上し、定着が見られた。

(2) 算数・数学科の取組

「反復不足によるミスの多さ」の課題に対し次の取組を行った。
 ・基礎基本を定着させる「里っ子辻っ子ワークシート」の作成
 特化したプリントによる反復
【成果】
 ・基礎基本の定着
 (全問正答率の向上)

3 体力の向上(体力向上部)

「持久力」「運動への意欲や粘り強さが弱い」などの課題に対し、次の取組を行った。
 ・運動の習慣化を図る。
 「運動習慣ポイントカードSPC」
 ・数値の目標を立てさせる。

4 豊かな心の育成(生徒指導部)

・記録の向上、意欲の向上
 「中1ギャップの解消」に向け次のことに取り組んだ。
 ・小中合同あいさつ運動
 ・小中交流会
 中1が出身小学校に出向き小6



に学校生活を説明する。
 教科書やジャージ、部活動の道具、通学鞆などに触らせる。
【成果】
 ・入学前の不安解消につながった。

おわりに
 校種間を超えた指導の重要性の理解が図られ、教職員の交流も進んだ。見通しのある教育活動がこれからの児童生徒の育成のため欠かせないと感じている。新たな課題克服に向けこれからも、なめらかな小中接続に向け研究を続けていきたいと思う。

編集後記

新会員を迎え、新たな門出です。大変お忙しい中、快く執筆を引き受けていただきました皆様には厚くお礼申し上げます。本年度より小学校3、4年生で外国語活動が始まり、小学校の道徳が「特別の教科」に。教育の不易流行を見極めて、さらなる教育の充実を願わずにいられます。

(森田彩子)